

【運動会は・・・】(すみません。今日は文章が長いです)



今週末、いよいよ運動会であります。

ここ3年、来場いただく人数を制限し、開催方法も全校一斉がなかなか叶わず、種目も制限され、窮屈さを少し感じながらの運動会でありました(それでも、その時できることは精一杯やってはきましたが)。

そして、今年。アフターコロナの中での運動会。コロナは終息していませんが、今までの制限がかなり緩和されての運動会となります。

しかし、正直この3年間のブランクは、子どもたちにとってはかなりあるような、ないような・・・。

わたくし個人のねがいとして、今まで運動会が築き上げてきた文化をここで途絶えさせてしまうには惜しい気がして、種目としての「大玉送り」「つなひき」「風車拾い」「リレー」の復活は悲願でありました(だって、おじいさんも、おばあさんも、お父さんも、お母さんも、みんな体験している競技なんですもの。やっていないと、共通の話題が・・・。それって寂しいなあって思っちゃうんです)。

しかし、ここ数年で残念ながら低下気味の子どもたちの体力を鑑みて、どのようにしたらこれら多数の競技を行うことができるのか?加えて、近年の温暖化による気候。子どもたちの体力が午後まではもたないのではないかという心配。これらの理由から午前みの開催となり、この限られた時間の中で、果たしてどのように運動会が行われるのか・・・。

あとは、実際にご来場いただき、ぜひ確かめてください。天気が今のところ心配ではありあますが、我々はいつも前を向いて、今できることを精一杯行って準備をするだけであります。大勢の皆様のご来場をお待ちしています。



雨の朝。昇降口が開くのを待つ子どもたち数名。おもむろに裸足になり、細かい砂利の上を疾走。反対の横断歩道で歩行指導をしている私。「なんだ、なんだ」と思わず近づき、パシヤリ。そして、インタビュー。

わたし「はだして、どうした？」

Aくん「足つぼ、マッサージ」

わたし「(驚き(+o+))。気持ちいい？」

Aくん「いたい～い」

ここでくりだす、**足つぼマッサージ**。この意外な言葉に驚きは隠せませんが、もしかしたら、運動会のお疲れ解消を子どもたちなりに考えての行動だったのかもしれない(もう一步踏み込んだインタビューができたかも。次、がんばります)。